

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2191300058 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 大治会 | | |
| 事業所名 | グループホーム おおぞら | | |
| 所在地 | 岐阜県加茂郡八百津町錦織1530番地39 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年7月5日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年9月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300058-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 令和3年8月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は山に囲まれ緑豊かな場所にあり、敷地も広く畑やなどもあり散歩は施設周りを車いすの方でも安全に行くことができます。隣の会社の周りは桜の木々が連なってあり花見のシーズンは、施設の敷地からもよく観覧でき毎年天気の良い日は何回も花見ができるいい環境の中で生活ができています。健康面に配慮し、天候にもよるが毎日のように換気をし、朝はラジオ体操とリハビリ体操、昼食前は嚥下体操、夕食前はタオル体操を必ず行っている。長引くコロナ渦であるが、お元気に過ごされている。レク創作活動で楽しむ時間を増やしている。利用者様も職員もコロナワクチン接種を2回終えている。引き続き感染対策をしっかりと行っていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人であり、複数の事業所を運営しながら、地域の医療及び福祉サービスの中心的役割を担っている。事業所は、利用者の生活機能の維持・向上を目指し、運動とリハビリを多く取り入れた支援を行い、利用者が自分で出来ることは、手を出し過ぎずに見守る支援を心がけている。コロナ禍の今、様々な制限があっても、生活の質を低下させることなく、落ち着いて暮らせるよう工夫し、レクリエーション等の実施で利用者の明るい笑顔に繋げている。また、法人の医療機関や関連施設と連携しながら、新型コロナ感染対策を徹底し、家族の安心に繋がるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|--|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者の皆様は同じ町内の方ばかりなので、方言の話など笑顔で話されている。また車いすの方の移乗など利用者様にとっても職員にとっても安全で楽な移乗の方法など朝のミーティング等で職員が共有できるように話し合っている。 | 毎朝のミーティングで理念を確認し、日々のケアで気づいた事については、職員間で再確認している。常に利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、それぞれが役割を持って笑顔で暮らせるよう、見守りと支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入会している。毎年地元の音楽ボランティアや中学生の職業体験など受け入れている。現在は新型コロナ感染予防の為、自粛中である。 | 法人として自治会に加入している。新型コロナ感染症の流行以前は、八百津町の花火大会に出かけたり、中学校や高校の職場体験受け入れ等で交流していたが、現在は、感染予防対策の為、中止している。今年は専門学生を1名だけ受け入れている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 以前管理者が包括支援センター主催の「認知症の方を介護している家族の会」に招かれ認知症の方の介護のコツというテーマで講話を行ったことがある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎年偶数月に運営推進会議を年6回開催している。会議は毎回交代で家族代表が出席され家族代表の意見から家族会を開催できるようになった。 | 運営推進会議は、コロナ感染予防の為、広い会議室で三密回避に努め、短時間で開催している。6月は町内でコロナ感染によるクラスターが発生したため中止となった。前回の会議を振り返りつつ、新たに議題を設け、意見交換を行いながら情報を得て、運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役場の担当者とは毎月運営状況を報告している。運営推進会議にも健康福祉課課長の出席を賜り行政の動向の説明をうかがっている。 | 市町村担当者とは日常的に協力関係が出来ている。事業所の状況を報告し、行政の指示・指導を受けながら、介護保険制度の動向についても、説明や助言を得ている。町主催の研修に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の弊害は職員全員が理解している。現在も玄関の施錠はせず、外に出ていこうとされる方には寄り添って外に出てそのまま散歩をし気分転換を図っている。 | 事業所開設当初から、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。3ヶ月に1回、全職員で「身体拘束適正化委員会」を開催している。ホームにおける身体拘束の排除宣言を掲げ、定期的に研修を行い、弊害についても正しく学びながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止は職員が共通理解している。入浴介助など毎回職員が交代ですので、皮下出血などの異変があれば管理者に報告して確認している。 | | |

岐阜県 グループホームおおぞら

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在権利擁護に関する制度を利用している利用者様はおられない。職員の中には以前成年後見人制度の研修を受講している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前や契約時に、当事業所の理念や利用料金、重度化した場合などを書面を用いて十分に説明し理解納得を図っている。介護報酬の改定があれば書面にて説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の訪問時や運営推進会議、家族会などの時に意見や要望を聞いている。また利用者の状況は毎月近況報告書を書いて報告している。 | 毎年11月に開催する家族会や、近況報告書を手渡しする際に、家族から意見を聞いている。利用者の要望等は、日々のケアの際に聞いている。出された意見や要望を職員間で話し合い、運営と利用者サービスに繋げている。 | ケアプラン目標、実施状況を「近況報告書」として、家族に渡している。コロナ禍の今、自由な面会は難しい為、散歩の様子、他の利用者や談笑する姿、リハビリに取り組んでいる姿等、報告書に写真を加えるなど、ホームの支援状況が家族に伝わりやすい工夫に期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関する職員の意見は、毎月の定例の会議や毎朝のミーティングでその都度職員の意見を聞いている。それをもとに改善を図っている。 | 申し送りは、時間をかけて行っており、管理者と職員は、良好な関係を築いている。気づきがあった時は出来る限り速やかに改善に繋げている。意見や提案については、会議の議題とし、全員で話し合っている。 | 毎月、定期的な会議や委員会を開催し、ホームの運営に全員で取り組んでいる。外部評価の自己評価についても、全スタッフが関わりながら、作成に取り組まれることに期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ほかの施設に比べ離職する職員がほとんどいないことを考えると、職場環境や条件が整っていると思われる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者は毎朝のミーティングや介護の現場で、介護職員の質の向上を図るよう説明したりデモンストレーションしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は同業者とその都度交流している。その時に介護保険制度の改正や介護事業などの意見交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者さんにもよりますが初期段階はなるべく声かけを積極的に行いコミュニケーションを多くとれるように努め信頼関係が早く築けるように工夫するし安心してホーム内で生活できるように配慮している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期の家族との関係作りは、利用者様の生活歴や趣味などを聞き取りながらコミュニケーションを図り、家族の思いや本人の思いをくみ取りケアプランに反映している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期段階の相談から本人家族のニーズなどを見極め、優先順位のもと段階的に支援し安心して暮らせて頂くよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様がホーム内でできる事を見極め、役割を見出してもらい生き生きとした生活になるように支援する。また生活リハビリの観点から、少しでも自立した生活を送れるように図っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と利用者様が疎遠にならないように近況報告を毎月1回各職員が書面で報告している。運営推進会議の家族代表も家族会で毎回違う家族の方に出席していただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や親類などの方が面会に訪れやすいような雰囲気づくりをしている。老健と合同で行うカラオケなどのレクリエーションでは老健利用者様の馴染みの方との関係を継続している。新型コロナウイルス感染症対策の為、自粛中である。 | 新型コロナウイルス感染予防のため、窓越しでの面会を行っている。コロナ禍で、様々な制限や自粛が強いられている中ではあるが、利用者の生活リズムを守るため、月に1度の美容師の訪問や、事業所で支援できることをレクリエーション委員会で検討し、実施できるよう取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 全員昼間時はリビングに見え、ソファに並んで座られ昔話に花が咲いている。居室に一人で閉じこもっている方は見えない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ほとんどの方は在宅に復帰されたり他の施設に移られる方は見えなかったが、他の施設に移られる方がみえたら相談や支援は当然のことと認識している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様の想いや希望などはスタッフ会議や朝のミーティング等で共有している。特に入浴時などは皆さんよく話されそれを職員全員で共有し支援している。 | 職員は、日々、利用者に寄り添いながら、思いや意向を引き出すよう心がけている。意思表示や自己決定が難しい利用者の思いを推測したり、職員の新たな気づきを申し送りノートに書き留め、職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者様の生活歴は家族などの情報や前の事業所のフェースシートなどで情報を得ている。また本人が話されることも職員全員で共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の有する力は、生活の中で概ね把握しているが、その日の体調で変わる方もみえるのでミーティングなどで確認して支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は本人や家族の要望を聞いてそれを反映している。設定期間ごとの見直しはもとより、本人の状況の変化によっても見直しをしている。その計画をもとに月1回介護職員が家族に近況報告を書面で報告している。 | 家族の面会時に意見や要望を聞き、医師や管理栄養士の意見も参考にしながら全職員で話し合い、介護計画を作成している。ケア会議やスタッフ会議でモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画作りを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画はもとより、排泄回数、食事摂取量、入浴記録、バイタルサインのチェック等毎日記録し毎朝のミーティングで話し合い援助が画一的にならないように対応している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 高齢者は医療的なニーズが高いので週に1回主治医が来訪している。また歯科衛生士も必要な方に週に1回来訪してもらっている。 | | |

岐阜県 グループホームおおぞら

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアさんが歌や踊りなどを披露に来所されている。音楽療法の先生も月に2回来所いただいている。新型コロナウイルス感染症対策の為、自粛中である。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 殆どの利用者様は以前より同法人のかかりつけ医師だったこともあり週1回診療に見える。歯科医師も月1回は訪問される。 | ほとんどの利用者は、入居前のかかりつけ医が事業所の協力医であった為、経過も含めて心身の状況を把握している。歯科協力医の訪問もあり、治療の必要な利用者は受診している。また、医師の指導を受けながら、利用者の口腔ケアにも取り組んでいる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日のバイタルサインのチェックや食事摂取量や排泄管理を行っている。急変時はかかりつけ医師に素早く連絡がいくシステムを構築している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 今まで当法人以外の病院に入院された方は殆どみえない。当法人の病院には毎週利用者様の概況報告を書面で知らせてある。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 最期まで慣れたところで、できる限り長く過ごせられよう支援している。重度化し医療依存が避けられなくなったときは、当法人の病院に移ってもらうことを契約時などやその都度書面で家族に説明している。 | 重度化や終末期については、入居時に利用者・家族に説明し確認している。協力医は、利用者・家族との付き合いも長く、利用者の性格も把握している。事業所は、医師や家族と相談しながら、本人が望むケアを提供できるよう支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時は法人内の看護師が体調を見て医師に連絡がいくシステムになっている。またアクシデントレポートの報告をもとに、急変時の初期対応の仕方を看護師が介護職員にレクチャーしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災専門会社と契約し、年2回消防訓練をしている。過去には近隣住民や消防団と連携し、参加してもらい消防訓練をしたことがある。 | 防災専門会社と契約し、隣接の関連施設と合同で防災訓練を実施している。法人は、地域の福祉避難所として協定を結んでいる。貯水槽があり、災害時におけるの備蓄も完備している。現在、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策マニュアルの作成を検討中である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 長い間入所されている利用者様とは信頼関係も深くなりいい関係が保てているが、反面言葉使いがなれ合いになってきている場面があるので話し合いをし対応している。 | 利用期間の長い利用者であっても、言葉遣いや対応が馴れ合いになることのないよう、職員間で注意し合っている。入浴時には、扉の外側から話しかけたり、トイレのドアの開閉が困難な利用者には、安全に配慮した声かけをしながら、プライバシーを損ねない対応を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定できる利用者様は少数だが、言葉かけなどしたりその方の表情やしぐさで思いをくみ取るように努力している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日のスケジュールはおおむね決まっているが、一人一人のペースを大切にしている。特に就寝時間や起床時間はその方に合わせている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容できない方はその都度職員が整えている。訪問美容でカットするときも本人や家族の意向を聞いて代弁している。入浴するときの服は自己決定できる方は選んでいただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おいしく食べられるように温かい料理は温かくして提供している。食事の後片付けは利用者様と職員と一緒にやっている。 | 同法人の病院にある厨房で調理した食事を提供している。地元メニューや季節のメニューも加えられ、利用者の希望があれば、給食改善委員会に伝え、提供されている。また、利用者の状態や体調に合わせて、その都度、調理方法や食事形態を変更している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量が落ちないように、高齢者の方の好きな味ご飯にしたりおやつなど利用者様の好みの手作りにしたり、水分は風呂上りはもちろん暑いときは夜中でもポカリ等を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎食後行っている。夜間は義歯をはずしポリドントにつけている。その他訪問歯科衛生士の指示や、相談しながら行っている。 | | |

岐阜県 グループホームおおぞら

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンを把握し、昼間時は全員トイレに行き排泄をしている。認知の深く車いす移動の方も目と目を合わせ声掛けするとトイレで排泄ができるようになってきた。 | 職員は、利用者の状態に合わせた排泄用品の選択について学んでいる。夜間は、ベッド脇にセンサーマットを置いたり、靴に鈴をつけるなど工夫し、安全に留意しながら支援している。現在、車椅子利用者も含めて、ほとんどの利用者がトイレで排泄出来ている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 基本的に排泄パターンを把握している。便秘の方は整腸剤でコントロールしている。坐薬や浣腸は使用していない。排便反射のある朝食後は必ずトイレで座ってもらうようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は介護サービスの中でも重要な位置づけとし、毎週2回以上は勿論のこと3回ぐらいは入られるようにしている。順番や入浴日などは特に決めておらず、一人ひとりに沿った支援をしている。 | 利用者ごとに湯を入れ替え、出来るだけ浴槽にゆったり浸かれるよう支援している。また、好みの湯温に調整し、利用者の話を聞きながら見守り支援したり、状態に合わせて2名で介助するなど、安楽な入浴を支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼間時は殆ど寝ないで全員リビングで過ごされているせいか夜間は皆さんよく寝られる方が多い。訴えがなくても職員が観察し体調の悪そうな方は横になってもらうこともある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様全員の薬情報はカルテに綴っており職員はいつでも閲覧出来る。薬の効能や副作用などわからなければ法人内の看護師がその都度調べ口頭で伝えている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様それぞれの力を生かして、掃除や食器拭き洗濯物をたたんでいただいている。レクで習字やカレンダー作り雑巾の裁縫などもしていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 施設内の敷地が広いので随時散歩に出かけている。景色など眺めながら、なるべく外気を浴びるようにしている。 | 新型コロナ感染症が流行する前は、職員と一緒に、買い物や喫茶店に行ったり、人数を分けてドライブにも出かけていた。コロナ禍の今は、様々な外出支援を自粛しているが、レクリエーションを工夫したり、法人施設の広い敷地内を散歩するなど、利用者の気分転換を図っている。 | |

岐阜県 グループホームおおぞら

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所時に家族と相談し、小遣い金を事務所で一括管理し、そこから本人が必要とする物の費用を支払っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は本人が希望されれば、事務所でできるが殆ど希望された方はみえない。家族からの電話は本人に取り次いで話す機会も多い。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 窓から外を眺めると季節ごとに色合いが変わる山の自然な景色が見える。創作活動で作られた手作りの作品が居室や共用の空間に飾ってある。職員が季節の花を飾っている。 | 木造平屋建てのホームには、各所に手摺りが取り付けられている。廊下は広く、壁面には利用者と職員の共同作品や習字等が飾られている。食卓にはアクリル板を設置し、手を触れる個所は職員が何度も消毒するなど、感染予防対策を徹底している。また、空気清浄機を設置し、定期的に換気も行っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 皆さんそれぞれ気の合った利用者同士で座ってみえる。一人になりたい方は居室におられることもあるが、皆さん概ね昼間時はリビングにみえる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に慣れ親しんだものを持ってきていただくように説明はしている。湯呑みや箸などは持ってきていただくことが多い。また好み の服なども持ってきていただいている。 | 居室には、車椅子でも利用し易い洗面台、机、ロッカー、介護ベッドが備えられている。必要な利用者にはテレビもレンタルできる。入り口には、目印となるよう家族が持参した暖簾をかけ、自分の部屋を間違えないよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室の入り口には各自が買ってこられた暖簾がかけてある。トイレのドアはピンクになっておりわかりやすくなっている。廊下は手すりが完備してあり安全性のためもあるので物を置かないようにしている。 | | |